

# バスケットボール集団の構造に関する研究

発表者 近藤 侑  
指導教員 日下 裕弘

キーワード：社会集団、リーダーシップ、チームワーク、運動図式、人間関係

## 1. 緒言

バスケットボールは、仲間と連携したスピーディーで多様な動きや相手の動きに対応した判断力が求められ、チームという集団の力がより重要になる。

本研究は、バスケットボール独自の個人的、集団の技術特性をふまえ、これらのチームプレーを生み出すバスケットボール集団の階層的構造を明らかにし、考察することを目的としている。

## 2. 研究方法

本研究は、社会集団論やリーダーシップ論、チームワーク論などを分析枠組みとし、バスケットボールの技術特性をふまえた集団の構造を考察・論考していく。

## 3. 分析枠組み（集団の構造）

### 3-1 社会集団論

構造とは、要素間の連関のことである。社会集団の要素を整理すると、①共通の目標や関心の存在、②一定の役割分化に基づく組織性、③成員行動や相互作用を規制する規範、④成員に共通する「われわれ意識」の共有、⑤社会関係の持続性、があげられる。

### 3-2 リーダーシップ論

リーダーシップ研究は、「リーダーシップ資質論」、「リーダーシップ行動論」、「リーダーシップ条件適応理論」と変化している。フィドラーは、リーダーシップを「課題重視型」と「人間関係重視型」の2つのタイプに分けた。チェラドライは、リーダー、メンバー、状況の諸要素を考慮するだけでなく、規定されたリーダー行動と選考されたリーダー行動を区別している。さらに、リーダーシップ行動を分類するために「トレーニング・指導行動」「民主的行動」「専制的行動」「社会的支持行動」「報酬行動」の5つの状況因子を明らかにした。人間関係のあり方の重要性がわかる。

### 3-3 チームワーク論

藤原は、スポーツ小集団の条件として、①一定の期間相互作用を維持すること、②相互に認め合っていること、③何らかの手段で相互にコミュニケーションすることができること、④共通の目的を達成する方向にあること、を挙げている。スポーツ集団におけるコミュニケーションの流れは、プレイヤーの所属集団とプレイヤー間の利害という2点に関係する。スポーツ集団を構成するメンバーは、目標達成に必要な義務を伴う行為である役割を担う。プレイヤーは所属する集団の一員として役割関係を把握し、自分が向上していることを自覚するとき、自己を正しく位置づけることが可能になる。利害は状況を規定し、状況はコミュニケーションの流れを規制したり促進したりする。

共通の利害をもつプレイヤーは、目標達成のためにコミュニケーションを共有し、共通の世界を確保しようとする。

プレイヤーの意識下では、様々な経験をするとともに錯綜体が生きて、はたらいっている。チームプレーを行う際、仲間と一体化し、プレイヤー同士が同じ状況判断を共有しつつお互いに補い合い応答することを「相補的同調」という。また、主体と仲間それぞれの錯綜体が、身体の潜在的な部分で深く同調し、一体となり、全体として共時的に動くことを「共振」という。プレイヤーは、練習やトレーニングを積み重ねることによって意識下のより深いレベルに運動図式を形成し合う。

### 3-4 モレノのソシオメトリー

ソシオメトリーでは、集団内の個人間の感情的な引き付けやしりぞけ、無関心というような力を「テレ」(tele)と呼んでいる。このテレは集団内個人間の感情的、心理的な距離の重要性を示している。(人間関係の重要性)

### 3-5 FIRO-B

FIRO-Bは集団における対人関係の志向性を捉えようとするものである。ソシオメトリーが情緒の流れを中心に人間関係を捉えているのに対して、FIRO-Bは相互的な人間関係行動を駆り立てている「包容への欲求」、「統御への欲求」、「愛情への欲求」を考慮する。そして、それらの欲求にもとづいて展開される「包容行動」「統御行動」「愛情行動」における能動的行動と受動的行動を測定することによって、相互的な人間関係を解釈していく。(集団内の役割行動の土台としての人間の欲求や人間関係の重要性)

## 4. バスケットボールの特性

バスケットボール競技は、ボール所有とシュートの攻防をめぐり、相対する2チームが、同一コート内で同時に直接相手と対峙しながら、一定時間に得点を争うゲームである。また、得点あるいは失点後もプレーが止まることなく、攻撃と防御が交互に連続的に行われるのが特徴である。

攻撃側、防御側の技術や戦術はさまざまであるが、その究極の目的はシュートを成功させて得点とること、シュートをさせることなくボールを奪取することである。

バスケットボールの個人技術には、一番の目的であるシュート、高度な判断力が必要とされるパス、ボールを保持したまま移動できる唯一の手段であるドリブル、ゲーム展開を大きく左右させるリバウンド、これらを支えるボールハンドリング、フットワークなどがある。

これらの個人技術をもとにチームプレーを完成させる。チームオフenseにはパス&ランやスクリーンプレイなどがある。これらを実現するため

には、「チームバランスの4要素(フロアバランス、シューティングバランス、リバウンドバランス、ディフェンスに移るためのバランス)」、「オフェンスドリルの選択」、「オフェンスシステムの柔軟性」、「ゲームテンポ(ゲームスピード)との関係」、「攻撃リズムの連続性」、「オフェンスシステムの簡明さと平易さ」、「チームディフェンスとの関係」の7つが重要である。チームディフェンスは、マンツーマンディフェンス、ゾーンディフェンスともに基本的には1on1で守ることには変わらない。しかし、必ずしもチーム全員が1人ひとりを守りきれるとは限らない。そこで、守りきれない部分をヘルプディフェンスやピンチディフェンスをしてボールを奪取できるようにしなければならない。これらのチームプレーは、プレイヤー同士の協力が前提であり、バスケットボールにおいては攻撃と防御をいつ、どこからしかけるか、それぞれの選択を共有することが求められ、選択の方法によってはゲームのリズムや勝敗が大きく左右される。

### 5. 結論：バスケットボール集団の構造

集団構造論からバスケットボールの集団構造を見ていくと、そこには生活局面、練習局面、試合局面の3つの局面が存在することがわかる。

生活局面は、バスケットボールをプレーする段階以前の局面である。ここには、例えば、集団内の個人同士の感情的な引き付けの力としての「テレ」(tele)や、「包容行動」、「統御行動」、「愛情行動」の3つの行動に含まれる、人と人としての関係がある。

バスケットボールのプレイヤーは、これらの生活局面を土台とし、「同じ目的や価値をもった人々の集合体」を形成する。このバスケットボール集団が機能するためには、「共通の利害(課題)」と「役割」が重要になる。

すなわち、練習局面において、バスケットボール集団を構成するメンバー(プレイヤー)は、バスケットボール特有のシュートやパス、ドリブルといった個人技術を習得内面化する。これらの技能は練習によって潜在的かつ可能な技能構造として意識下に沈み錯綜しつつ、習慣化され自動的に行われるようになる。そして、この技能はさらに深層にある下位動作から成り立っている。また、これらの基本技能をもとに、プレイヤーは、バスケットボールの複雑なオフェンスとディフェンスの対峙、スピーディーな動きに対応する、「相補的同調」や「共振」(運動図式・身体図式の共有)を通してチームプレーを完成させる。バスケットボールのチームオフェンスに代表されるパス・アンド・ランやスクリーンプレイ、チームディフェンスにおけるヘルプディフェンスやピンチディフェンスは、プレイヤーのこうした共振・同調から生まれる。

これらの共振・同調は、技術レベルが高いプレイヤーが集まるだけでは成り立たない。共通の利害より規定された状況から生まれたコミュニケーション、また、バスケットボール集団として活動するために生まれたリーダーの支援が、この共振や同調を促進させる。こうしたチームプレーの根底には、個人プレーの運動図式の土

台として、生活局面における人としての相互的人間関係がある。

試合局面では、練習局面で培った多くのチームプレーが選択されて、目に見える具体的現象として実現される。(図1)

### 7. 文献

- 1) 深山元良(2012)、スポーツ集団におけるリーダーシップ研究の展望—特性、行動、状況アプローチの視点から—、城西国際大学紀要、pp.129-141.
- 2) P. Chelladurai(1980)、Dimensions of Leader Behavior in Sports : Development of a Leadership Scale、Journal Of Sports Psychology、p.2、pp.34-45.
- 3) 菅原禮(1991)、スポーツと社会理論、不昧堂出版、pp.154-168.
- 4) 体育社会学研究会編(1974)、体育スポーツ集団社会学、pp.159-179.
- 5) 佐藤多恵(2009)、フローの感覚の構造～市川浩の身体論に準拠して～、茨城大学教育学部卒業論文、Pp23.
- 6) 前川峰雄 他(1978)、現代体育学研究法、大修館書店、pp.340-374.
- 7) 日本バスケットボール協会(2011)、バスケットボール指導教本、大修館書店、pp.2-3、34-102、164-218、232-273. ほか

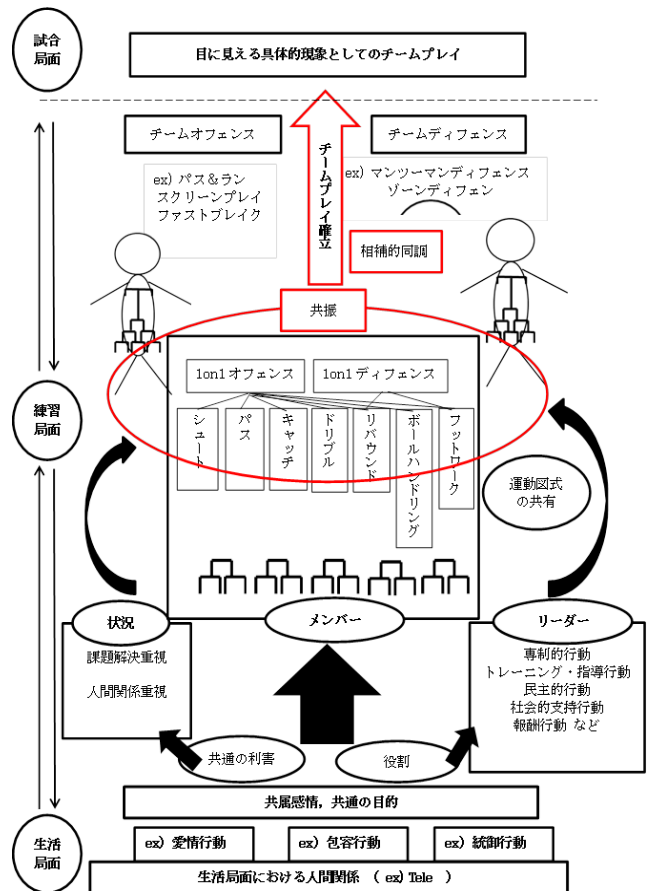


図1. バスケットボール集団の構造